

一般社団法人八大学工学系連合会
第146回 八大学工学関連研究科長等会議 /
2023年度（第10期）臨時社員総会 議事録（案）

日 時 : 2023年9月29日（金）14:00～17:00
場 所 : ソラリア西鉄ホテルおよびオンライン

議 題

- (1) 入会審議
- (2) 前回議事録確認
- (3) 2023年度（第10期）第1回運営委員会
- (4) 運営委員会第1分科会：博士フォーラム
- (5) 運営委員会第2分科会：若手研究者育成
- (6) 運営委員会第3分科会：メッセージ発進のためのデータ収集
- (7) 公開シンポジウム
- (8) The Rising Stars Women in Engineering Workshop (RSE)
- (9) 次回次々回常設会議
休憩
- (10) 講演
「芸術×工学によるデザインプロジェクト」
九州大学大学院芸術工学研究院 准教授 松隈 浩之
「我が国の未来をけん引する工学教育の現状等について」
文部科学省高等教育局専門教育課 企画官 森 次郎

配布資料

- 資料1 出席者名簿
- 資料2 入会申込書
- 資料3 第145回 八大学工学関連研究科長等会議議事録（案）
- 資料4 2023年度（第10期）第1回運営委員会議事録（案）
- 資料5 第1分科会-2022年度博士フォーラム-活動状況
- 資料6 第2分科会-若手研究者育成-活動状況
- 資料7 第3分科会-メッセージ発進のためのデータ収集-活動状況
- 資料8 第1～5回公開シンポジウム資料
- 資料9 The Rising Stars Women in Engineering Workshop (RSE)

開会・総会成立確認

事務局より、一般社団法人八大学工学系連合会 2023 年度（第 10 期）臨時社員総会の開会宣言があり、定款第 15 条により、本社員総会の議長を代表理事の幅崎会長が務める旨説明があり、幅崎議長より挨拶が行われた。

議事に先立ち、事務局より、定款第 17 条により、本日は 2023 年度社員 27 名中 23 名の出席により定足数を満たしており、社員総会は成立していることの確認、報告があった。

議事要旨

(1) 出席者名簿

資料 1 に基づき、出席者名簿確認、出席者自己紹介が行われた。

(2) 入会審議

幅崎会長より説明があり、資料 2 に基づき、北海道大学工学院 泉典洋先生の入会審議が行われた。全員一致をもって認められた。

事務局より、以上をもって臨時社員総会閉会、引き続き第 146 回八大学工学関連研究科長等会議を開会の宣言があった。

議長の山本先生の紹介と挨拶があり、第 146 回八大学工学関連研究科長等会議を開始した。

(3) 前回議事録

事務局より資料 3 に基づき、2023 年 4 月 21 日（金）開催の八大学工学関連研究科長等会議議事録確認が行われた。

(4) 2023 年度（第 10 期）第 1 回運営委員会議事録

事務局より資料 4 に基づき、2023 年 6 月 12 日（月）開催の第 1 回運営委員会の議事録確認が行われた。幅崎会長より各分会の主査の先生、議論の内容が説明された。

(5) 運営委員会第 1 分科会：博士フォーラム

主査の尾崎先生より資料 5 に基づき、博士フォーラムの実施計画を説明した。今年度の幹事校は大阪大学、2023 年 12 月 1 日（金）サントリー記念館（C3 棟）5 階メモリアルホールにて開催予定、テーマは「AI 時代の博士の歩み方～博士ってぶっちゃけどうやねん？～との説明があった。

(6) 運営委員会第 2 分科会：若手研究者育成

主査の服部先生より資料 6 に基づき、令和 5 年度アンケート調査の対象は修士課程修了者（博士課程に進学しなかったものとする）で調査内容などを説明した。

(7) 運営委員会第3分科会：メッセージ発信のためのデータ収集学生動態調査結果

主査の渡邊先生より資料7に基づき、昨年度に続き「メッセージ発信のためのデータ収集」として学生動向調査として継続する。調査内容などを説明した。

(8) 公開シンポジウム

事務局より資料8に基づき、今までのシンポジウムの内容を紹介した。

今年度は2024年3月29日（金）に開催予定となった。

(9) The Rising Stars Women in Engineering Workshop

東京大学加藤先生より資料9に基づき、女性研究者キャリアアップのための国際ワークショップ（RSE）の内容、11月20日～22日東京大学本郷キャンパスで開催案内、八大学からの応募者数と採択者数の報告があった。

(10) 次回次々回常設会議

次回開催：2024年4月19日（金）ベイサイドホテル アジュール竹芝
（東京大学）

次々回開催：2024年9月20日（金）（大阪大学）

東京大学加藤先生、大阪大学桑畑先生より次回開催の案内があった。

(12) 講演

「芸術×工学によりデザインプロジェクト」

題して、九州大学大学院芸術工学研究院・松隈浩之准教授より講演があり、その後質疑応答が行われた。

- ・アート（感性）と工学（論理的思考）の融合は、どのようにしたらうまくいくか
- ・工学系で卒業論文に値するものが、芸術系では作品となるが、芸術系における評価はどのように行っているのか。
- ・芸術系（一点物を作る）と工学系（技術により同じものをたくさん作れるようにする）の評価軸は異なると思うが、評価軸をどこに合わせているのか、そもそも合わせられるものなのか。等の意見があった。

「我が国の未来をけん引する工学教育の現状等について」と題して、文部科学省高等教育局専門教育課 森次郎企画官より講演があり、その後質疑応答が行われた。

- ・定員管理を入学定員から収容定員に変更したことにより、留学生の受け入れなど厳しい状況にある。特に高等専門学校生について厳しい状況にあり、定員管理について、柔軟な対応策をご検討いただきたい。
- ・今回の変更による編入学の大学側の受入数減少について、高専側に失望を与えている。このような状況を踏まえて、定員管理に対する対応をご検討いただきたい。
- ・研究経費について、研究室の教員が外部資金を獲得して賄っているが、修士、博士学生が研究する経費について、どこが責任をもって負担すべきとお考えか。運営費交付金だけで

は、賄うことはできない。

- 運営費交付金が削減されている中で、現状、教員の外部資金の有無等に学生の研究費が依存しているため、学生本人が研究費を獲得できる環境（仕組み）づくりが必要と考えている。等の意見があった。

事務局より、以上をもって第146回八大学工学関連研究科長等会議を閉会することの宣言があった。

以上